

実際の街の問題を

一緒に考えて考える

「まちなかゼミ」。

シャッター通りや団地の空き家など、今、日本の街では人口減少による問題が噴出してきます。そこで住み良い街の条件を国内外の事例から比較研究しています。ある地域、今の時代に適した都市計画であっても、所や時代が変われば通用しない。だからこそ多くの事例を調べ、場所や時代を越えて共通する仕組みを探ることが必要だと考えています。重視しているのが地域調査。現地で行う「まちなかゼミ」では、美濃加茂市や犬山市を舞台に学生と住民がワークショップを開き、商店街の活性化や空き店舗対策を考えてきました。教室を飛び出し街に出て、住民と対話する中でこそ、答えが見つかると考えています。

今の理想だけではなく

時間軸も視野に

街づくりを考える。

今、私が一つの街の姿としてめざすべきと考えるのは、「歩ける街」です。徒歩や自転車、公共交通機関を使って楽しく歩ける街では、さまざまな発見があり、新しい交流も生まれます。日本は今後100年で人口が1/3まで減ることが予想され、今の理想だけを追い求めても街づくりは失敗するでしょう。目標に向かうプロセスなど時間軸も含めて、街づくりを考えることが求められてくるのです。2017年にはナゴヤドーム前キャンパスへ移転することもあり、近くの大曽根商店街の活性化などにも取り組む予定です。名古屋市内への移転によって他学部との連携が増え、新たな可能性も拓けてくると期待しています。

教室にいても、  
答えは出ない！  
街に出よう、話をしよう。

## 都市情報学部 都市情報学科



### 海道 清信 先生

もともと地方都市のニュータウンや工業団地開発などを手掛けてきた先生。持続可能な都市の在り方として「コンパクト・シティ」を提案したことで有名だ。「ただ地域ごとに状況は違うので、それぞれに見合った計画を考えることが大事です。都市計画は人間社会の全てが関わるもの。複雑で難しいからこそ面白いんですね」。

### 私の マストアイテム

### ポストイットと マジック

街でのワークショップでは、住民目線で意見を引き出すことを大事に、各自の考えをポストイットに書いてもらいます。将来、学生にはゼミでの経験を生かし、地域の問題に関して街の人の相談に乗れる人間になってほしいですね。



大切な思い出：ゼミ1期生からのメッセージ

